

「第 12 回 “本気” で語ろう会」 会議録

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
| 団体名  | 東部町内会連絡協議会                        |
| 日 時  | 平成 26 年 11 月 14 日（金）17 時から 18 時まで |
| 場 所  | 横綱                                |
| 参加者  | 東部町内会連絡協議会（串田輝男様外 15 名）           |
|  | 市長、副市長、市長公室長、道路建設課長、広報広聴課長        |
| <p>1 田崎地区の通学路の整備について</p> <p>2 住民要望への早急な対応について</p> <p>提案：私どもは町内会を合併してから 2 年になるが、旧田崎町内会の地域の整備が遅れているように感じている。その一つとして、風呂井会計事務所から、アルコール工場跡地に抜ける用水路上の道路は子供たちの通学路になっていたが、耕作放棄地が多く藪が目立っている。土地改良で年 2 回住民と一緒に藪払いを行っているが、それだけでは払いきれない。通学路として通れる状態ではないので、用水路、排水路、舗装など、この道路の整備をお願いしたい。</p> <p>次に、住民からの身近な相談についてであるが、側溝の詰まり・蓋板の設置・道路の舗装など 10 項目ほど市の担当者に要望しており、3 つ程は実施してもらった。残りの部分についても、縦と横の連携を取って早急に対応していただきたい。ぜひ、住民が喜ぶ仕事をしてほしい。千葉県松戸市には「すぐやる課」という課があり、住民に大変喜ばれている。そういう迅速な対応をお願いしたい。</p> <p>回答：その里道については、私も現地を確認したが、ここは、学校の指定する通学路にはなっておらず、大通りの田崎川西線を通った方が歩道も整備され安全性が高いと思われる。お話のあった里道を通った場合、多少は学校までの距離が短縮されるが、耕作放棄地や側溝もあるので、安全性がどうなのかなという懸念がある。ただ、ここの整備としては、轍が深く草もたくさん生えているので、計画的な轍取りを行いたい。</p> <p>また、この里道は、一部下流の方が土側溝になっている場所があるが、下流の水田の用排水にも使っているため、ここには計画的にトラフを入れたほうがよいと考えている。</p> <p>次に、要望への対応については、全町内会に及ぶ話だと思うが、道路、舗装、側溝等の大きな部分はどうしてもお金がかかるので、前年度に場所等の確認をして予算を確保し、次の年度で対応することになる。それとは別に、皆さんから日常的に来る要望については、鹿屋市には「直営班」という職員が鹿屋地域に 4 班、吾平、輝北、串良に各 1 班配置されており、除草伐採、舗装の轍、路面補修、側溝清掃など、計画的に対応している。また、道路の延長が長く、毎年除草伐採等しないといけないところは、計画を立て委託により実施している。</p> <p>皆さんからの要望に対してどう対応したのかという実績について、データの整理が完全ではない部分があるが、鹿屋地域だけで年間 900 件もの要望があり、順次対応している。ただ、相当な数なので、要望をいただいたときに、対応に時間が掛かりそうときは時間がかかる旨を伝えて、その後きちんと処理をするというルール作りを行い、皆さんからいただいた情報を、安全・安心な街づくりに生</p> |                                   |

かすというような、そういう信頼関係を持って取り組んでいきたい。

**提案：**水道工事の後だと思うが、路面をカッターで切った後の埋立てが雑ですぐに穴が出来てしまう。市で工事の入札をするとき、あとの補修まで入れて契約した方が良いのではないかと。歩行者や自転車が通行するのに危ない。

**回答：**個人の住宅に水道を引込むときの工事だと思うが、工事自体は個人が業者に依頼するものである。ただし、工事をする際の道路の占有許可申請があったときに、盛り上げて舗装しないことや、仮設用の物ではない、本来の加熱アスファルトを使い転圧をしっかりとってくださいといった条件を付け許可を出している。

また、盛り上げた舗装がしてあると、車が通るたびに家に振動が伝わるといった相談も後から来るので、それを防ぐためにも事前に同様のお願いをしている。

### 3 新築予定の川東公民館の避難所への認定について

**提案：**大雨の時など、川東には避難勧告がよく出される。東原台地や笠之原台地の雨水が、肝属川に流れ込む最終の通り道として川東を通過していくためであり、川の方もある程度水が流れ込むと逆流しないように遮断するので、行き場を失った雨水が川北などの水田にたまり農免道路が通行止めになる。床下・床上浸水もある。川東の避難所としては、田崎小学校と田崎地区学習センター。寿方面なら東地区学習センターがあるが、雨風が強いときに肝属川を渡ることは難しいし、距離も危険箇所もたくさんある。

そのような中、川東公民館は築40年が経過しており、平成30年までには新築建替を予定している。この新築公民館を、避難所に認定できる設備になるようご指導いただき、ぜひ川東の避難所として正式に認定していただきたい。

**回答：**災害の時に避難する場所は、安全な場所であればどこでも良いのだが、市の指定避難所としては小学校単位で市内に57か所指定している。自分の地域以外の避難所に行ってはいけないという決まりはないので、安全なルートで行ける避難所に、安全に動けるうちに行っていただきたい。

なお、指定避難所として川東公民館を指定するとなると、基本的には職員を2名配置して情報伝達ができるようにしないといけない。現在でも災害時には57か所に職員が張り付きその他の職員も動くので人員的にもなかなか難しいし、指定避難所は、小学校単位で指定しているということもある。ただし、町内会は自主防災組織でもあるので、町内会の判断で公民館を開放し、自主的に避難所として使うことは何の問題もない。ぜひ、そのような方法で公民館を活用していただきたい。

**提案：**田原地区は低いところにあり、大きな畑かん用水路も通っているため、水が溢れてくる。避難をするときに笠之原方面に行けないとなると、川東公民館が一番近い。

回答：川東公民館は地区の中心にあるので、ぜひここを開放して積極的に使っていただきたい。

提案：その場合、防音ガラスにしないといけないのか。

回答：今の公民館は、きちんとした住宅として作っているので、わざわざ手を入れる必要はないと思う。

提案：昔、市の担当者に雨戸はあるかとか聞かれたことがあったし、職員は来なくても、自分たちが公民館にいて連絡体制は取るので、何とか認めてもらえないかとお願いしたが、結局避難所として認定してくれなかった。

回答：指定避難所としての認定は難しいが、皆さんの自主的な避難所として、公民館を積極的に活用していただきたい。

#### 4 寿地区の課題について

市長：寿地区の課題について話をさせていただきたい。今、鹿屋市内で住宅が一番増えているのが札元であるが、この大きな課題として雨水排水の問題があり、大雨の時はいつも浸かってしまう場所が出てくる。これについては、今年度中に王子町に大きな排水路が通るので、雨水がそちらを通るようになれば、ある程度解消できるのではないかと考えている。また、それ以外にも国道 269 号線の一部や笠之原について、平成 26 年から 30 年にかけて計画的に雨水排水対策を行うこととしている。

次に、小学校周辺の交通安全対策について、寿地区は小さな路地が多く、子供たちの通学に危険な箇所が多い。これについては、ゾーン 30 ということで、30 km の速度規制を行いながら、カラー舗装や標識などにより運転者に視覚的な注意を促す対策を取っていききたい。

また、学校の問題として、東中学校が相当大規模化して色々問題も出てきているようなので、生徒指導の問題も含めて、教育委員会や警察と一緒に取り組んでいきたい。

それから、商店街の街灯についても今度 LED 化されるし、この地域は子育て世代など若い方も多いので、皆さんの色々な意見を聞かせていただければ、出来ることはやっていきたいと考えている。

最後に、町内会の加入率について、市全体で 76% 位だが、寿など一部の町内会では 50% を切っているところもある。今回、20 億円の予算をかけて防災無線を整備したが、市が一斉に情報を提供しようとしたとき、50% の加入率だと防災無線の有効活用という意味では厳しいと感じる。町内会の加入率も上げていかないといけないので、協定を結ばせていただいた宅建協会や町内会連絡協議会のご協力をいただきながら、皆さんと一緒に取り組んでまいりたい。

提案：寿8丁目も、雨が降ると中央高校近辺など水たまりができる個所がある。もともと側溝が小さいようだが、今後、見直しなどはされるのか。

回答：昔は、これほど寿に住宅地が連たんして発展するとは思っていなかったと思うし、側溝や道路の幅が市の発展に十分対応してないのは事実だと思う。

ただ、側溝は下流から手を入れていかないといけないので、それぞれの地区の情報を寄せて面的な排水計画を考えていきたい。なお、部分的な個所については手を入れられると思うので、声を聞かせていただきたい。

## 5 その他

提案：市長の市政報告と今後のビジョンについて、教えていただきたい。

回答：市政の大きな課題として、まず、産科医の問題があり、生み育てやすい環境づくりが大事である。また、介護の問題についても、保険料の額が高いことがある。裏を返せば、介護の体制が充実しているということでもあるが、今後6期の事業計画の見直しをするので、高齢の方が最後に過ごすのに適した環境を作れるよう取り組みたい。そういう意味では、市行政の中で医療、福祉、介護は相当大的なウエイトを占めていると感じている。

次に、国でも言っている地方創生であるが、本市も10年くらいすると人口が10万人を切るであろうと予想されている。10万人というラインから減らさないようにする努力が必要だが、そのためには、雇用の場が大事であると考えている。ただ、昔のような大きな企業誘致は難しい時代なので、小規模の企業家の人たちに鹿屋に住み着いてもらい、雇用を生んでいただくような仕組作りを、産業支援センターや県と共に取り組んでいる。その中で、来年3月に大隅加工技術拠点施設が出来るが、1次加工、2次加工など、そういったところに雇用の場が生まれてくるので、農家が個人経営から企業経営となり、雇用力を持った経営に変わっていくことで、農業が大きな雇用の受け皿になると考えている。併せて、他の産業についても取り組んでいきたい。

本地域の人口は、大隅地域24万人のうち鹿屋市が10万人であり、全体の約40%が鹿屋市民である。そう考えると、鹿屋が発展するためには、鹿屋の周りの市町の人口が減ってはいけない。この方々が、鹿屋に買い物に来たり、学校に来たり、仕事や病院などに来ることで鹿屋が潤っていると考えている。鹿屋がこの地域の中心となり、周りの市町を支え、周りにある程度人口が定着することで、その恩恵にあずかることができる。そういう地域であることは間違いない。

また、鹿屋には色々な国・県の機関や、金融機関、不動産、企業の支店、自衛隊、敬愛園などがあり、そこに働いている人たちの家族をみると、比較的若いまちだと感じる。県の平均と比べても、高齢化率は低く、出生率は高い。実は、鹿屋は子供を産む人が多いのだが、それは子供を産む年頃の若い女性が多いからである。これは、自衛隊や官公庁など3年くらいで異動があり、うまい具合に年頃の人々が循環していることが理由だと思う。そういった意味では、30年40年後の高

齢化率も県内では優等生だと思うので、今の人口規模は維持しないといけない。

来月には、東九州自動車道も開通するが、我々にとって便利になるだけではなく、例えば、鹿屋に住まなくても鹿児島から通うとか、そういった人も出てくるかもしれない。そうなると、鹿屋の支店経済みたいなものが崩壊してしまうので、ある程度の人口規模を維持して、民間の人から見て、ここが経済圏として魅力ある所にならないといけない。人口規模の維持は最大の政策課題だと思っている。

今後の対策として、鹿屋の切り札は色々あるが、一つは、今、農業・農村戦略ビジョンというものを作っており、農業をしっかりとした形で雇用と所得の上がる産業として育てることが重要であると考えている。また、生産だけでなく、風景や民泊等による農業体験なども重要であり、農業の持っている様々な機能を生かしながら農家の所得も上げていきたい。

もう一つ、鹿屋は健康スポーツのまちであり、国内唯一の国立の体育大学があるが、今度、ここにスポーツパフォーマンス棟という、市も2億5千万円出した、非常にレベルの高いスポーツ実験棟ができる。また、市でも串良の平和公園に野球等の屋内練習場を作ることとしており、野球のピッチングやシートノック練習だけでなく、ゲートボールや幼稚園等の運動会にも使える施設となる。屋内の競技場がないとスポーツ合宿と言ってもどこも来てくれないので、こういった施設を通じ、鹿屋の地域性を発揮するプロジェクトとして、スポーツによる地域おこしを行っていきたい。

それから、もう一つ、鹿屋の特色が自衛隊の存在であり、この地域にとって大きな役割を持っている。経済的な役割もあるが、戦争の最後の特攻基地として平和教育に生かしていきたい。この地には戦跡がたくさんあるものの、戦後70年手つかずの物もあり壊れそうな物もある。きちんと管理して後世に残しつつ平和教育に生かしていきたいし、関心のある人を観光客としても呼び込みたい。この鹿屋にしかない、鹿屋体育大学と自衛隊鹿屋航空基地をしっかりと活用していきたい。

最後となるが、吾平、輝北、串良の3地区は相当疲弊しているので、総合支所を中心に、吾平山稜、天球館、平和アリーナなどの施設や地域の思いやり、風景など、それぞれの地域資源を生かしたまちづくりにより、地域を活性化し定住促進に努めたいと考えている。

私は、市政は住民の暮らしを守ることだと考えているが、その意味では、市民と市政の距離感があるようなので、この「本気で語ろう会」や「市民の声直行便」により皆さんの声をお伺いしている。要望や苦情も多いが、それでいいと思っている。市民の皆さんに市政への関心を持ってもらい市民力を高めることが、この地域を盛り上げるために一番大事であり、そういうことに努めながら私たちも頑張るので、皆さんのご提案等をいただければと考えている。

**提案：洪水の避難訓練について、田崎小は、海拔18mで毎年避難訓練を行っているが、田崎中は、それより低い海拔14mなのに高台等への避難訓練を行っていない。田崎中の校長先生・教頭先生に話をしたが、特には行わないと言われた。何故かと聞くと、うちは避難所に指定されているからしないと言われた。ここより高いところにある田崎小の校長先生は逃げる訓練をしているのに、ここはしないと言**

う。

いざという時の為に、高台等への避難訓練は行うべきだと考えているが、そういった部分の願いは、市に言えばいいのか、教育委員会に言えばいいのか教えてほしい。

回答：火災や地震の避難訓練については、どこの学校でも実施しているが、洪水は学校によるのかもしれない。

地元の小中学校と、地域が連携するのは大事なことなので、そういう話が地元からあったということは、関係部署に話をしておきたい。